教育最前線　連載 8

（財）日本交通安全教育普及協会［原付通学生徒及び交通指導担当教員研修会］

バイク（原付）通学を許可している高校の教員を対象に安全指導のノウハウを提供

（財）日本交通安全教育普及協会は、バイク通学を許可している高校の教員を主な対象に、バイクに関する技術や実技指導のノウハウを提供する「原付通学生徒及び交通指導担当教員研修会」を実施している。この研修は、交通安全教育の定着と教員同士の連携強化を図ることが目的で、今年は、山梨・和歌山・鳥取・宮崎・熊本・鹿児島・静岡の全7県で開催された。

熊本県では、県教育委員会の協力のもと、8月19日、天草自動車学校（熊本県天草市）にて同研修が開催された。この研修には、天草地区の高校11校から、教員15名、生徒39名が参加した。指導は、（財）日本交通安全教育普及協会の亀田清人主幹をはじめ、天草自動車学校指導員、熊本県二輪車安全普及協会指導員が担当した。

天草地区の高校11校から代表生徒39名と、交通指導担当教員15名が参加した

ポイント①　なぜ事故が起きるのか、生徒自身が考える

「生徒自身が問題意識を持って考えることが大切」と亀田さんは話す。『速度の読み取り』『衝突実験』を交えた事故再現では、「なぜ事故が起きるのか」「事故防止のためにはどうすればよいか」などを生徒に問いかけ、生徒自身が考え、振り返る時間を取り入れている。

また、生徒が積極的に授業に参加できるよう、『速度の読み取り』は速度を予想するクイズ形式で行われたり、『衝突実験』は衝突の怖さを視覚や衝撃音でわかりやすく伝えるなどの工夫がされている。

交差点でのバイクの事故事例を紹介した

ポイント②　危険を安全に体験して、事故防止に活かす

「熊本の生徒に事故が多い場所を聞いたところ、多くの生徒がカーブと答えました。けれども、カーブでの安全な走行方法についての知識は不足していました。カーブで速度を出しすぎることによる危険性を体験から感じとり、限界速度の存在を生徒が納得することで、カーブ手前で速度を落とし、安全速度で走行するという行動につながります」と亀田さん。

コーナリングの練習を体験した松島商業高校2年の田浦有沙さんは「スピードを出しすぎると、膨らんで走行しちゃうので怖いと感じました。スピードが出たままでカーブに進入しないように注意したいと思います」と感想を語る。

交通指導担当教員がバイクに関する技術や実技指導のノウハウを学ぶ

ポイント③　生徒の運転技術を向上させる練習

課題走行は、ブレーキング、コーナリング、低速バランス。二輪車の走る・曲がる・止まる・倒れるという特性を考え、個々の習熟度を上げるための指導法を教員に紹介した。

「運転姿勢や技術レベルには個人差もあります。操作ミスなどによる事故を防ぐために、運転姿勢や操作など気づいた点を生徒にアドバイスしてほしい」と亀田さんはいう。

学んだ指導法を各校に持ち帰り生徒への安全運転教育に役立てる

「今回の研修では、原付通学生徒と交通指導担当教員に集まってもらいました。生徒たちにどう指導すれば良いのか指導の実際を先生方に見ていただき、自校で取り入れてほしいと願っています」と亀田さんは研修のねらいを話す。実技研修後、生徒が研修の振り返りを行っている間に、交通指導担当教員は研究協議を行った。研究協議では、それぞれの指導内容にはどんな狙いがあるのか、どんな点に留意すればよいのかが話し合われた。

研修に参加した天草工業高校の古賀寿夫先生は「体験的な内容が多く強く印象に残る研修でした。一時不停止違反などが多いので、事故再現の部分を参考にして、安全確認の重要性を生徒に伝えたい」と感想を語った。

[指導内容]

1 乗車準備

乗車前には、車両点検・服装・運転姿勢のアドバイスが行われた。出発前には必ず車両の点検を行うことが大切と説明。点検方法は、「ブタと燃料」で覚え、ブレーキ・タイヤ・灯火類・燃料の4項目をチェックする。

次に、バイクは車体が小さいので目立ちにくく、ライダーは転倒した際に身体にダメージを受けてしまうため、身体の保護性を高め、夜間でも目立つ正しい服装が必要と説明。長袖・長ズボンの着用、サンダルやヒールのある靴は避けること、ヘルメットは必ず着用し脱落を防ぐためあごひもは指1本が入る程度にしっかり締めることを伝えた。

また運転姿勢では、目・肩・肘・手・腰・膝・足の7つのポイントに分けて正しい運転姿勢のアドバイスが行われた。

2 事故再現

バイクの事故事例として、直進するバイクと右折しようとするクルマが衝突する右直事故を紹介。この事故をもとに、なぜ交差点で事故が起こるのか、事故防止のためにはどのような注意が必要かを生徒自身が考える。

まず、クルマとバイクをそれぞれ走らせてその速度を予想する『速度の読み取り』を行った。その結果、速度の感覚が人により違うこと、また、実際は同じ速度で走っていてもバイクの方がクルマよりも遅く感じる人が多いことを確認した。

次に、生徒の目の前で45km/hで走るクルマをダンボールに衝突させる『衝突実験』を行い事故の危険性を伝えた。

『速度の読み取り』『衝突実験』をふまえて、交差点での事故防止のためには、信号を必ず守ること、信号が青でも積極的に安全確認を行うこと、信号のない交差点では一時停止をして安全確認を行うことなどを生徒とともに考え、確認した。

3 ブレーキング

最初に、安全に短く停止する練習を行う。30km/hで走行し、目標位置でブレーキをかける。同様に40km/hでも行った。

次に、目標となる枠の中で停止する練習。練習は20km/h、40km/hで行われ、生徒たちは、20km/hの速度の違いでも制動距離が大きく違ってくるため、早めのブレーキが必要であることを体感した。

4 コーナリング

安全な範囲でカーブを曲がる際の限界速度を体験する。この日は、カーブを20km/h、30km/h、35km/hで走行する体験を行った。生徒たちは、速度が速くなるほど慣性力の影響で外に膨らみ危険であることを体感し、安全に走行するにはカーブ手前で速度を落とすことの必要性を学んだ。

続いて、カーブ手前で速度を落とし、安定してカーブを曲がる練習が行われ、ブレーキやハンドル操作のタイミングなどを練習した。

5 低速バランス

両側をポールで区切られた狭い直線コースとS字コースを低速で安定して走行する練習を行った。

生徒たちは、練習を通じてバイクはバランスをとって乗る乗り物であることと、バランスをとりやすくするには正しい運転姿勢が必要であるということを学んだ。バランスを崩してポールに接触する生徒も多く、目線を遠くにおいて走行することなどがアドバイスされた。